

2022年6月



# ヤポロニア



グダンスク大学東洋学科の学生新聞



みなさん、こんにちは！第二号の私たちの新聞はこちらです。今回は、ポーランドの祝日やポーランドのことわざや日本人に好かれるポーランドの有名な人について話します。日本旅行についてや、ロシアでの日本語の勉強について書いた人もいました。また、ポーランドと日本の友好関係やスラブや日本の妖怪を見せます。上の写真は、私たちのグループです。楽しんで読んでくださいね。

## ポーランドのゴールデンウィーク

毎年ポーランドでゴールデンウィークを祝っています。ポーランド語でゴールデンウィークは「MAJÓWKA (マユフカ)」と言って、5月1日から5月3日まで続きます。この間、いくつか国民の祝日があります。



<https://grill360.pl/porady/majowka-2021-jak-sie-przygotowac-do-grillowania/>

### 5月1日(労働祭)



<https://konin.naszemiasto.pl/1-maja-swieto-pracy-tak-obchodzono-je-w-koninie-w-czasach/ar/c1-8257780>

労働祭の日は、ポーランドでは1950年に祝日にされましたが、それより前の1890年に初めて行われました。1905年には、兵隊と市民の戦闘がありました。

5月1日のこの激しい闘いで、

より良いポーランドのために戦った活動家が亡くなりました。現在、昔の出来事を記念して労働祭の日が祝われています。

## 5月2日(ポーランドの国旗の日)

国旗はとても大切な国のシンボルです。赤色と白色は、ポーランドの国章である赤地に白のワシを表しています。この日に、ポーランド人はまどから国旗を掛けます。



[https://pl.wikipedia.org/wiki/Dzie%C5%84\\_Flagi\\_Rzeczypospolitej\\_Polskiej](https://pl.wikipedia.org/wiki/Dzie%C5%84_Flagi_Rzeczypospolitej_Polskiej)

## 5月3日(憲法制定記念日)

ポーランドと日本が同じ日に憲法記念日を

祝っていますよ。1788年10月に召集された国民議会は、1791年5月3日、ワルシャワで憲法を制定しました。



<https://www.gov.pl/web/grecja/swieto-konstytucji-3-maja>

この記念日に兵隊が集まって、スタニスワフ・アウグスト・ポニャトフスキ (国

王)は式典に参加しました。現在、ポーランドでたくさん行進が行われています。

これは一番大切な国民の祝日です。



「MAJÓWKA (マユフカ)」の日は時間がたくさんあります。ポーランド人は海や山や湖へ行ったり、庭でバーベキューをしたり、家で休んだりします。とても楽しい時ですね。私は今年結婚式へ行きました。

(ドマホフスカ・アレクサンドラ)

## 日本旅行の思い出

2015年に私はスカウトに入っていました。このおかげで、世界スカウト大会のために日本に行くことができました。World Scout Jamboree という大会でした。すばらしい旅行でした。

8月に私のアドベンチャーが始まりました。スカウトの友達といっしょにひこうきでワルシャワから成田へ行きました。12時に出発して、10時に到着しました。時間がもどりました。

日本に来た日、雨が降っていました。空気はとても湿気がありました。気候はポーランドとは違いました。成田空港から電車で東京の繁華街に行きました。駅から、お寺に歩いて行きました。私たちは大きなバックパ



ックを持って歩きました。暑かったから、それは大変でした。お寺の外で僧は私たちを出迎えてくれました。仏教のお寺だったと思います。

僧といっしょに寝る場所へ行きました。僧が日本について教えてくれました。それから、晩ご飯を食べて、寝ました。

翌日お寺を訪ねました。きれいでした。しかし、お寺の中では写真がとれないと言われました。その夜、私たちは日本の家族と会いました。日本人は私たちを自分の家に招待してくれました。私たちは 3 日間いっしょに住みました。その時、東京を訪れました。例えば、東京タワーとディズニーランドに行きました。

しかし、旅行のハイライトは世界スカウト大会でした。3 日後、日本人の家族に別れを告げて、東京から山口まで新幹線で行きました。そこでバスに乗って大会の場所まで行きました。私たちが着いたとき、そこはすでに暗かったです。あっという間に暗くなってきたことは珍現象だと思いました。それなのに、私たちはテントを張りました。

次の 2 週間は冒険でいっぱいでした。私は世界中の人々と彼らの文化に出会うことができました。みんなとたくさん話して、いろいろな国の人と友だちになりました。私もいろいろなイベントに参加しました。例えば、音楽会や文化の日や宇宙ステーションでの宇宙飛行士との会話。でも、広島への訪問が私に最大の印象を与えました。私たちは博物館を訪れて、記念碑を見ました。折紙の鶴の作り方も覚えめました。広島ではたくさん感情を感じました。

2週間後、ポーランドに帰る時が来ました。友だちと別れて、おみやげを交換しました。うちへ日本のものをたくさん持って帰りました。しかし、最も面白いおみやげはメキシコのスカウトからもらった「ソンブレロ」と言う帽子でした。



私は左から3番目です。 <https://www.facebook.com/ZastepCOMBO>

帰る時、ひこうきで大阪から成田へ行きました。夕方に着き、ポーランド行きのひこうきは朝だけだったので、空港のベンチで寝ました。帰る時でしたから、みんなが悲しみました。私たちは最後にラーメンを食べ、家族のためにたくさんのおかしを買いました。

私は日本への旅行のとても良い思い出があります。私はもうスカウトではありませんが、外国人の友だちとはまだ連絡を取り合っています。私は、その旅行のおかげで日本が好きになりました。

(ストゥプキェヴィチ・マリア)

## スラブモンスターと日本の「妖怪」の比較

妖怪は、人間の理解を超えた、奇妙で異常な現象を引き起こす、不思議な力を持っている並外れた存在です。彼らは日本神話の怪物や奇妙な生き物です。日本神話は非常に興味深く複雑です。日本の文化にはたくさんの怪物がいます。それはスラブ文化と似ています。一部の妖怪は、スラブ人が信じていたモンスターに似ています。ヴィトルド・バルガス (Witold Vargas) の日本の動物寓話に触発されて、私はそのようないくつかの例を比較することにしました。

### 山地乳と「zadlica (ジョンドリーツァ)」

山地乳は大きな夜の悪魔です。モンスターは猿のように見えます。山地乳は夜にやって来て、眠っている人の命を口で吸い取ります。静かに動きます。この妖怪の犠牲者は翌日死にます。人間が夜にモンスターを捕まえることに成功した場合、人間はさらに数年生きることができます。

非常によく似た生き物がスラブ神話にもあります。それは「zadlica (ジョンドリーツァ)」です。このモンスターは、死んだ人々から刺す

ような舌で致命的な毒を吸い、それを眠る人に注入します。このことから、犠牲者はとても速く死にます。このような状況を避けるために、故人ははさみで埋葬され



竹原春泉画『絵本百物語』より「山地乳」  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%B1%E5%9C%B0%E4%B9%B3>

るべきです。その後、彼はモンスターの舌を切り落とすことができるようになります。

### 赤舌と「planetnik (プワネトニック)」

日本では、乾季には田んぼの上に大きな黒い雲が見られます。そこには獅子のような大きな怪物、赤舌が住んでいます。かぎ爪と毛むくじゃらの顔で、黒い雲に覆われた獣のような姿が描かれていますが、全身のイメージは分かりません。また、この妖怪はとても長い赤舌を持っています。モンスターは灌漑水路を守っています。ある人が他の人から水を盗んで畑にまくと、モンスターはその舌でトリックスターをつかんで食べます。



鳥山石燕『画図百鬼夜行』より「赤舌」  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B5%A4%E8%88%8C>

スラブの「planetnik (プワネトニック)」も雲の中に住んでいて、すべての農民がかなり雨に恵まれていることを確認します。これらの生き物はまた、雲とひょうを導くと信じられていました。人に有利な生き物は天から地へと降りてきて、嵐を警告しました。モンスターが地面に倒れると、日本の親族のように毛むくじゃらであることがわかります。ただし、小型で危険性は低くなります。



## ダイダラボッチとスラブの巨人

ダイダラボッチは日本最大の巨人です。湖と池は彼の足跡でできたくぼみです。モンスターはまた、岩やほこりから富士山丘を形成しました。この妖怪は無害ですが、見た目で人を怖がらせます。ダイダラボッチは、黒い肌、大きな目、そして山の頂上に跳ね返る長い舌を持っています。

スラブ地域では、巨人が風景を形成したとも信じられていました。どうやら、昔、すべてのスラブ人は巨人でした。スラブ神話には多くの巨人がいます。一部は特定の山脈に割り当てられています。たとえば、「Karkonosz (カルコノシュ)」という名前の巨人です。しかし、ダイダラボッチのように全国を構成するスラブの巨人はいません。

ポーランド人の目で見ると、妖怪はスラブのモンスターよりも少し複雑だと思います。妖怪は白黒ではなく、その場合、すべてが明確に理解できるわけではありません。これは彼らを非常に興味深いものにします。世界のそのようなさまざまな地域で、似たような力と外見の特徴を持つ魔法の生き物に出会うことができるのは興味深いことです。



勝川春章・勝川春英画『怪談百鬼図会』より「大入道」。ダイダラボッチのイメージに近  
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%80%E3%82%A4%E3%83%80%E3%83%A9%E3%83%9C%E3%83%83%E3%83%81>

(ススカ・ナタリア)

## 好きな本

ポーランドにたくさん有名な小説家があります。例えば アンジェイ・サプコフスキやオルガ・トカルチュクです。ウィッチャーという小説は、日本で人気があると思います。でも私の好きな本はポーランドの本ではありません。私の一番好きな本は「ジェーン・エア」です。「ジェーン・エア」は 1847 年に出版されました。その本の小説家はシャーロット・ブロンテです（1816 年 4 月 21 日～1855 年 3 月 31 日）。シャーロット姉妹は本を書くことでも知られていますね。



[https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/8/86/Charlotte\\_Bronte\\_coloured\\_drawing.png](https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/8/86/Charlotte_Bronte_coloured_drawing.png)

「ジェーン・エア」はポーランド語で「Dziwne losy Jane Eyre」と言います。本はジェーンという名の孤児の物語です。女性はソーンフィールド邸で家庭教師として行きます。そこでジェーンはグレース・プールという女の子を教えています。ソーンフィールド邸でエドワード・フェアファックスも住んでいます。その男性の妻は死にました。ジェーンはエドワードに恋をします。でもエドワードは多くの秘密を隠しています。ジェーンはだんだん秘密を明かしますよ……。面白そうですね。私はこの本について、たくさんいろいろなことを話すことができます。でも、みなさんがこの本を自分で読むほうがいいですよ。

インターネットによると、2009 年と 2012 年に日本で「ジェーン・エア」のミュージカルがありました。2009 年のキャストは松たか子や橋本さとしです。2023 年にもそのミュージカルが行われます。（2023 年のジェーンは上白石萌音です）。ま



<https://ecsmedia.pl/c/dziewczyna-z-konbini-w-iext104641843.jpg>

た、この本の日本語訳の情報を見つけました。翻訳は大久保康雄です。いつか日本語で「ジェーン・エア」を読みたいです。がんばりたいです。

追伸 他に好きな小説家はヴィクトリア・シュワーズとオスカー・ワイルドです。村田沙耶香の本もいいですね。「コンビニ人間」は素晴らしい本ですよ。

(メフリンスキ・ルーカス)

## ポーランド人は日本人をどう思っているのか?

ポーランドと日本は友好国です。日本では多くのポーランド人が働いたり、旅行したりしています。近年、ポーランドにも多くの日本人が来ています。「ポーランド人は日本人をどう思っているのだろうか?」という質問が出てきます。この記事では、ポーランド人が日本人についてどのように考えているかを紹介したいと思います。

1つ目は、「日本人はみんなマンガやアニメが好き」というステレオタイプです。ポーランドでは、アニメやマンガがとても人気があります。だから、ポーランド人は、「日本ではみんな見たり、読んだりしている」と思ったのでしょう。

2つ目のステレオタイプは、「日本人は毎日寿司を食べている」というものです。このように考える理由は、先ほどの例と同じでしょう。ポーランド

人は、日本の日常の食事がどんなものか知りませんから、日本人は毎日すしを食べているんだろうなと思ったようです。

3つ目の例は、日本人はシャイだということです。初めて日本に来た人はそう思うかもしれませんが。しかし、これは完全に正しいとは言えません。ポーランドには、日本と同じくらいシャイな人が多いでしょう。日本人はポーランド人に比べて、新しい友人を作るのが少し遅いですね。だから、ポーランド人は、日本人はみんなシャイだと思うのでしょうか。

どの国にもステレオタイプはあります。本気にしない方がいいです。ポーランド人は日本人をよく思っています。ずっとこのままでいてほしいです。

(チシェヴィンスカ・ヴィクトリア)

## ポーランド語と日本語のことわざ

ポーランド語でも、日本語でも、どの言語でも、いろいろなことわざがある。日本語を勉強しながら、ことわざや熟語に遭遇した。そのうちのいくつかは、奇妙なのや賢いのだと思った。

一番目のことわざはかわいいから、好きである。それは「目に入れても痛くない」という慣用句である。それを読んで、小さくかわいらしく害のないものについて思った。子猫とか赤ちゃんとか。そのようなものはかわいいから、自分の体を痛めても、そんなに痛くない。同じ意味をしているポーランド語の慣用句を考えてみたが、おそらくないだろう。これに近いポーランドのことわざは「傷にかぶせてもいい」(do rany przyłóż)である。そのように好ましく親切な人を語れる。

しかし、一方で、次のことわざはポーランド語に相当している。それは「明日のことを言うと天井のネズミが笑う」といういい習わしである。ポーランド語で同じ意味をしている格言が二つある。一つは普通で、「人が考え、神様が定める」(człowiek myśli, Pan Bóg kreśli)である。二番目の方は、私の意見では珍しいものだと思う。その格言は日本語で「七面鳥が日曜日のことを考えていたら、土曜日に頭を切断された」(myślał indyk o niedzieli, a w sobotę łeb mu ścięli)として翻訳する。それらの格言は未来の予測はだれにもできないということを意味している。人々が計画を立てても条件が変わる。天井のネズミでもそれを分かる。だから、いつもさまざまな状況に準備した方がいい。

三番目の好きな格言は「猿も木から落ちる」である。それはだれでもときどき間違いをするということを意味している。同じ意味ではないが、その格言は動物に関係があるポーランド語の格言を思い出させる。それは「フェンスの後ろに一番目の猫」(pierwsze koty za płoty)で、初めて何かをすると、間違いをしても、大丈夫だという意味だ。前向きなメッセージなのに、格言の語源は暗い。昔、最初に生まれた子猫が弱そうだから、フェンスの後ろに投げすてられたという。

外国語のことわざや熟語を身につけるのは、外国の文化を知るために、大切だろうと思う。そして、外国語と母語で同じ意味をしていることわざを比べると、両方の文化の似ているところや違いを知ることができる。

(オコン・サシャ)

## ショパンの心

フレデリック・フランソワ・ショパンは、19世紀のポーランド生まれで、世界的に有名な作曲家でピアニストです。しかし、この記事でショパンの経歴や音楽について話したくないです。亡くなってから、何が起こったかを書くつもりです。

フランスで肺結核で死亡する前に、重い病気だったショパンは、死んだ後で体を開いて心臓を取り出して、ワルシャワに送るように頼みました。姉のルドヴィカ・イエンドジェイエヴィチュ（Ludwika Jędrzejewicz）は、その希望を叶えるために、アレコールに満ちた瓶に入れた心臓を、プロイセン王国の占領下のポーランドに持っていきました。まず、しばらくワルシャワの自分のアパートで、弟の心臓を保管しました。そして、ショパンの家族と行った聖十字架教会に渡しました。悲しいことに、ショパンの生活の送り方のせいで修道院長は30年間ぐらい心臓を隠したままにしました。

この話はノーベル文学賞を受賞しているオルガ・トカルチュクも、「逃亡派」(Bieguni)と題した本に書きました。

(ベドナレク・ガブリエラ)

## ポーランドの復活祭

ポーランドでは三月や四月に人々が復活祭を祝っている。イースターが一番古いキリストの儀式である。この特別な時には、たくさんの宗教儀式があり、民族の伝統である。いろいろな風習を作り始めたのは十世紀である。たとえば、春になると、ポーランドの家族はずっと家をかたづけている。この時に、人々は美しい飾

りをさげたり、へやをそうじしたり、  
おいしい料理を作ったりする。特に卵  
を染めるのは楽しくて面白い行事であ  
る。長い間卵は生命の象徴だった。



<https://pl.travelingilove.com/kurpiowska-niedziela-palmowa-w-lysoch/>

聖週間は聖枝祭から始まる。イースターの伝統では有名な聖枝祭である。この祝日は中世からポーランドで祝われており、キリストがエルサレムに到着したことを記念して設立された。その日は教会で人たちが色付き椰子を持ってくる。椰子の木は再生の象徴であり、ヤナギの枝など、さまざまな木や花でかざってできる。

聖週間の終わりは、聖木曜日と聖金曜日と聖土曜日で、もっとも大切な行事は聖日曜日の復活祭である。聖土曜日の朝ポーランドの家族がみんなイースターバスケットを作って、教会へ行き、食品を祝福する。そのバスケットにはイースター



エッグやバプカというケーキや西洋  
わさびやソーセージやツゲを入れら  
れる。

<https://rozrywka.radiozet.pl/Co-gdzie-kiedy-jak-co-dokoszyczka-wielkanocnego-i-co-symbolizuje-swieconka>

翌朝、ポーランド人は特別な礼拝式にさんかする。そして、家族がみんな集まっているので、みんなはたくさんの昼ご飯を食べる。例えば、イースターの食べ



物は、マズレクやバプカというというケーキや、卵やコールドミートやジュレックというスープや野菜やパンである。

<https://www.ofeminin.pl/lifestyle/kultura/tradycje-wielkanocne-zwyczaj-wielkanocne-ktore-trzeba-znac/xfv5dlk>

さらに西のポーランドの県では、子供たちがイースターエッグをさがして、うさぎに色々なプレゼントとおかしをもらう。その後で、聖月曜日には子供たちが大人に水をかける。人々に水をかける習慣は異教の時代からのものだった。

このように、ポーランドの復活祭はとても面白くて楽しい行事である。この時人々はみんな家族と会ったり、おいしい料理を食べたり、プレゼントをあげたりする。また、天気がよくなると、大変美しくさく花を見てもいい。

(ワジク・ユリア)

## 日本語の勉強

この記事はロシアで日本語の勉強についてです。私はグダンスク大学の大学生ですが、今モスクワの留学生です。

日本語の勉強はロシアとポーランドでとてもちがいます。一週間にロシアの大学生は、日本語の授業が七つあります。最初の週は面白かったです…。卒業後、私はロシア人の一年目と同じでい度です。そのほか、ロシア人は四年勉強します。これは悲しいです。今彼らは七百五十以上の漢字を知っています。授業で文法を勉強したり、ほん訳したり、作文を書いたり、映画を見たり、練習をしたりします。



時々ことわざを訳します。ここで作文を書くことがもっとむずかしいです。この間、地理や民族服について作文を書きました。私たちはイントネーションの授業もあります。この授業で正しく話すことを勉強します。

ロシアで日本語の勉強はとてもいいと思います。ポーランドの私達の学科で日本語の授業が少ないのはざんねんです。

(シャポヴァル・アレクサンドラ)

